



# Inexplicable owl vol.3 “evaporation”

2016.11.30 Menicon ANNEX HITOMI HALL, NAGOYA

## PROGRAM

- |           |                                     |                |             |  |
|-----------|-------------------------------------|----------------|-------------|--|
| 1. 原田 裕貴  | Visions II                          | piano 山内 敦子    |             |  |
| 2. 細井 博之  | ヴァイオリンとピアノのためのソナタ「春」                | violin 岩月 茉那   | piano 菅原 拓馬 |  |
| 3. 田中 範康  | Sparkling in the Space VIII <無>への幻想 | fagot 依田 嘉明    |             |  |
|           | (休憩)                                |                |             |  |
| 4. 鳥羽 宏美  | Particle                            | piano 首藤 友里    |             |  |
| 5. 牛島 安希子 | Gravity Wave                        | saxophone 所 克頼 |             |  |
| 6. 平野 玲美  | Arles                               | soprano 高木 彩見  | piano 平野 玲美 |  |
| 7. 岩本 渡   | Synesthesia                         | harp 操 美穂子     |             |  |

## 1. Visions II

「シ」の音を軸に、ピアニストと電子音がせめぎ合うようにして音楽は展開していく。曲の冒頭、ピアニストの演奏をきっかけにタイマーが作動、ある条件を満たすとタイマーはリセットされるが、同時にそれまでのピアニストの演奏に基づいた電子音が発せられる。そしてタイマーはまた動き出す……。作品の礎となっているのはこのようなプログラムだ。どのような電子音がどのように生まれるかは本番になってみないとわからない。もちろん、ある程度の制御はしているが、コンピュータで行っているのはほとんどが乱数処理であるため、予想だにしない調子っ外れな音が発せられるかもしれない。それはそれで楽しみでもある。

### 原田 裕貴 Yuki HARADA

国立豊田高専環境都市工学科を卒業後、名古屋芸術大学サウンド・メディアコースに入学、同大学大学院音楽研究科修了。在学中より映画、舞台、ゲーム、TV-CM等の音楽制作に携わる。現在、名古屋芸術大学、岡崎女子大学、岡崎女子短期大学非常勤講師。http://yukiharada.com

### 山内 敦子 Atsuko YAMAUCHI

愛知県立明和高等学校音楽科卒業後、渡仏。パリ・エコールノルマル音楽院に入学し高等演奏家ディプロムを修得、最高課程を修了。帰国後、愛知県立芸術大学音楽学部卒業。名古屋音楽大学大学院修士課程修了。2011、12、14、15、16年にリサイタルを開催。エレクトロニクスや映像、ダンサーとの共演など幅広い演奏活動も行っている。コンサートグループ「花の詩」、名古屋フランス音楽研究会会員。現在、岡崎女子短期大学、岡崎女子大学、中部大学、大同大学、各非常勤講師。

## 2. ヴァイオリンとピアノのためのソナタ「春」

10年ほど前にヴァイオリンとピアノのためのロンド「秋」という作品を書いたが、今回はその続編にあたる「春」をソナタで書こうと試みた。春といえば、冬を越した自然や生命が再び芽生える季節であったり、日本では人との別れと出会いを伴う時期であったり、僕個人としても毎年桜の散る頃に誕生日を迎えるからか、殊更に生命のことを思わせられる。

生命とは何であろう？ 例えば、我々の身体を構成する素粒子は一年を経たずしてすべてが入れ替わってしまうことが分かっているが、我々個人が決して別の何者かに変わってしまったとは感じないことを不思議に思う。それはまるで、川の流れの中の水の粒子は絶えず入れ替わり続けているにもかかわらず、川そのものが何かしらの別の川に変わってしまったとは誰も思わないみたいに。あるいは、楽譜を構成している炭素や黒鉛などの物質そのものよりも、その並び方の側にしばしば意味が見いだされるように。

作中の展開部では、合理的に無機的に分解され続けた第1主題が頂点となるDの和音に到達すると同時に、非合理的で有機的な第2主題に包まれる。ここに、情報の世界と物質の世界との対比と融合を描こうとした私の意図がある。

今回演奏して下さる菅原さんと岩月さんは10年前のロンド「秋」の初演も務めて下さった。人の成長を思うとき10年という歳月は決して一概に長いとは言えないが、今回もまたお二人に感謝すると共にその間の歩みを互いに分かち合える良い機会になればと願っている。

### 細井 博之 Hiroyuki HOSOI

名古屋芸術大学音楽学部卒業、愛知県立芸術大学大学院音楽研究科修了。在学中よりセントラル愛知交響楽団、愛知室内オーケストラ、愛知県立芸術大学管弦楽団をはじめソロや室内楽も含め様々な演奏家によって作品が演奏される。近年は東京・パリでも作品が演奏される一方で、名古屋ではコンサート「オセロ」や作曲家グループ「Inexplicable owl」にも参加し作品を創出している。また、主に東海地方の演奏家によるコンサートのための編曲にも多数従事している。第2回TIAA全日本作曲家コンクール入賞、第30回読売中部新人演奏会出演、～新進アーティストの発見 in あいち～アーツ・チャレンジ2010 音楽部門入選。作曲を田中範康、岩本渡、光部雅人、北爪道夫、久留智之の各氏に師事。主な作品にチェロとピアノのためのソナタなどがある。http://www.h-hosoi.skr.jp/

### 岩月 茉那 Mana IWATSUKI

愛知県立明和高等学校音楽科を経て、愛知県立芸術大学卒業。同大学院修了。学部在学時、同大学定期演奏会に出演。第6回全日本ジュニアクラシック音楽コンクール入選。第7回名古屋演奏家育成塾にて奨励賞および聴衆賞受賞。2005年、フランスのロレーヌ国際フェスティバルアカデミーでグエイ・コマンターレ氏の指導を受け、ソロで講習生コンサートに、室内楽で修了コンサートに出演。2008年日本音楽教育学会東海地区・日本音楽学会中部支部合同例会にて修士論文を発表。これまでにヴァイオリンを山本美季、谷近藤フミ子、市川絵理子、瀬戸瑠子、進藤義武に、室内楽を星野順一、天野武子、進藤義武、ウラディミール・マリニン、クロード・ルロンの各氏に師事。愛知室内オーケストラ団員。Rose Quartzメンバー。

### 菅原 拓馬 Takuma SUGAWARA

宮城県生。合唱曲「空気の触感」、2人の指揮者とオーケストラのための「コラーゲンII」（北方寛文氏と共作）、「同じ時代、この星に生まれて」（白樺八青委嘱、作詞）などの作曲作品の他、編曲も多数行う。愛知県在住の作曲家、アーティストによるグループ企画「オセロ」にて、2011年と2012年に作品を発表。ピアノのみならず鍵盤ハーモニカや笛などを活用した枠に捉われない表現を行い、クラシック演奏家や声楽家とのアンサンブル、また語り手やダンサーとの即興コラボレーション等、様々な表現者と共演している。平光真彌、新谷歌両氏と共に結成した「冷やしメンズラ」（Cool Men's La）にて、コンサートホールや美術館、各種施設、学校、路上ライブに至るまで、幅広いシーンでの活動を行っている。

## 3. Sparkling in the Space VIII <無>への幻想

本作品は、私がアコースティック楽器とエレクトロニクス技術による新しい音の世界を追求した Sparkling in the Space シリーズの第8曲目になる。本シリーズでは、全て異なるアコースティック楽器を使い、私なりにいくつかの実験を交えた作品と言える。今回は始めて2枚リードのファゴットを使い、それとエレクトロニクス音の融合を目指した。

### 田中 範康 Noriyasu TANAKA

国立音楽大学作曲科並びに器楽科（オルガン専攻）卒業。作品は、世界各地の音楽祭、放送メディアで紹介されている。オーストリアのVMMレーベルから室内楽作品集として、2枚のアルバムがリリースされている他、国内では「田中範康作品集」が2011年に、「田中範康作品集II [音の情景]」が2014年に、ALMレコードよりリリースされている。現在、名古屋芸術大学音楽学部、同大学院音楽研究科教授。日本現代音楽協会、日本作曲家協議会、日音楽家協会各会員。

**依田 嘉明** **Yoshiaki YODA**

1990年武蔵野音楽大学を経て同大学院修了。1990年宝塚ベガ音楽コンクール室内楽部門第2位。同年8月渡蘭。オランダ・スウェーリンク音楽院に学ぶ。在学中ネーデルランド・ダブルリードアンサンブルのメンバーとしてヨーロッパ各地で公演。1998～2002年までセントラル愛知交響楽団に在籍。現在、名古屋芸術大学・大学院准教授、三重県立白子高校吹奏楽コース非常勤講師。そのほか岐阜県交響楽団や大垣室内管弦楽団等のトレーナーやオーケストラの客演演奏者、またソリストとして国内外で活躍中。

## 4. Particle

今回のコンサートテーマ“evaporation”は蒸発を意味する。そこで、この作品では、気体となった粒子“Particle”に焦点をあて、それぞれの粒子が自由に動き回る様子をこの作品で表現している。現代曲でありながらも美しく繊細な響きを求めた。ピアノから奏でられる1音1音の響きからマイクロの世界を感じて頂ければ幸いである。

**鳥羽 宏美** **Hiromi TOBA**

岐阜県多治見市出身。名古屋芸術大学サウンド・メディアコース卒業。在学中は現代音楽作品の制作を中心に学ぶ。2011年には同大学主催 The renaissance21で『戦〜Ikusa〜』を初演。翌年には同演奏会で『混沌』を初演。また、「カレイドスコープ 2012 Sympathy」で立体音響を用いた作品『Natura duce nunquamaberrabimus』を初演する。作曲は田中範康氏に師事。

**首藤 友里** **Yuri SHUTO**

名古屋芸術大学音楽学部演奏学科ピアノコース卒業。同大学院音楽研究科器楽専攻修了。パリ・エコールノルマル音楽院ディプロム取得。第36回読売中部新人演奏会出演。一般財団法人山田貞夫音楽財団平成25年度奨学生。2014年セントラル愛知交響楽団とオーケストラ共演。これまでに米山朋子、中沖玲子の各氏に師事。現在、名古屋芸術大学契約助手、同大学保育専門学校非常勤講師。

## 5. Gravity Wave

この作品は母校の50周年記念のコンサートのために祝祭的な作品をと思い、作曲したものです。ホワイトノイズを中心とした電子音響がサクソフォンの音を取り巻き、それがサイン波によるキック音により、強い方向性を持った音の身振りになり、明確な拍節感を生み出すという音楽的なアイデア、そして、ブラックホールや地球の重力のような強い引力で星や物体が引き寄せられるというイメージが曲の構想となっています。楽曲の中心を担うのは瑞々しいサクソフォンの音色です。エレクトロニクスのパートはそのサクソフォンの音を包み込み、一体となって、一つの世界観を提示できるよう、構築しました。初演から2ヶ月、新たにサクソフォン演奏者、所克頼氏を迎えました。初演とは違った、新たな音楽を作り上げてくださっています。どうぞお聴きください。

**牛島 安希子** **Akiko USHIJIMA**

愛知県立芸術大学大学院修了。ハrug王立音楽院作曲専攻修士課程修了。エレクトロアコースティック作品を主に制作。近年は映像や身体表現を取り入れたパフォーマンス作品にも取り組む。第六回JFC作曲賞入選、国際コンピュータ音楽会議ICMC 2013（オーストラリア）、2014（ギリシャ）入選、ムジカ・ノヴァ国際電子音楽コンクール2014ファイナリスト（チェコ）など。作品はオランダをはじめ、アメリカ、イギリス、ロシア、日本など各地で演奏されている。現在、愛知県立芸術大学、名古屋芸術大学、各非常勤講師。現代音楽舞台研究会副代表。http://akkoushijima.com

**所 克頼** **Katsuyori TOKORO**

岐阜県出身。名古屋芸術大学卒業、同大学院修了。インディアナ大学音楽学部パフォーマンスディプロマ修了。第6回横浜国際音

楽コンクール第3位。第3回飛騨河合音楽コンクール第2位（1位なし）。2009年よりリサイタルなど開催。これまでにサクソフォンを遠藤宏幸、雲井雅人、三日月孝、オーティス・マーフィーの各氏に師事。現在、フリーのサクソフォン奏者としてソロや室内楽での演奏や講師など東海地方を中心に活動。2017年5月24日電気文化会館にてリサイタル開催予定。

## 6. Arles

ちょうど一年前の11月、Inexplicable owl vol.2の演奏会より少し前に、愛犬アルルが天国へ旅立った。vol.3のテーマでもある「蒸発」のように、現実にはここにいなくても空間に漂う微粒子にアルルの姿を具現化させ、この曲に想いを乗せて別れと再生を祈ろう。とても可愛かったのに、あまり可愛がってやれなかった自分の、せめてもの償いなのだから。曲の前半はピアノソロにより、小さな犬が楽しく駆け回っている様子を表し、歌い手はアルルと飼い主である家族の二役を動きで表現する。「アルッ!」と呼ぶと瞬間的に振り返ったものだが、その呼び声は装飾音として随所に登場させている。喧騒が一旦収まった後、段々と現実に戻され、やがて歌が始まる。作詞は父 MAKOTO。

**平野 玲美** **Remi HIRANO**

名古屋芸術大学器楽科ピアノコース卒業。同大学院音楽研究科作曲専攻修了。在学中、同大学主催の「ピアノのタペ」「卒業演奏会」等に出演。2009年にはパリで、2012年にはベルギーに於いて自作の室内楽作品を発表。第3回TIAA全日本作曲家コンクール審査員特別賞受賞。第8回横浜国際音楽コンクール・アンサンブル部門（連弾）第2位。ピアノを浦山文子、早瀬圭子の各氏に、作曲・オルガンを田中範康氏に師事。

**高木 彩見** **Ayami TAKAGI**

名古屋芸術大学音楽学部演奏学科声楽コース卒業。同大学研究生修了。在学中、同大学主催の「歌曲のタペ」「研究生特別演奏会」等に出演。声楽を移川澄也、谷上節子、伊藤久枝の各氏に師事。地元・三重県桑名市にて桑名弦楽合奏団第29回定期演奏会「フィガロの結婚」にスザンナ役で出演。名古屋芸術大学卒業生により結成されたグループ「Triangle Tears」に所属し、各種演奏会に出演。

## 7. Synesthesia

音を聴くと色を感じたり、音とは異なる別のイメージが思い浮かぶことがある。これを共感覚というが、人によってその感じ方には大きな違いがある。不確定で、なんともイマジネイティブなこの現象に思いをはせて、作曲した。

**岩本 渡** **Wataru IWAMOTO**

愛知県立芸術大学音楽学部作曲専攻及び同大学院修了。第50回日本音楽コンクール作曲部門第1位。愛知県体、フィギュアスケート本田武司の競技用音楽の編曲、NHK BS番組のテーマ音楽、「愛・地球博」、劇場版アニメ「ボトムズ・ファインダー」のサウンド・トラックを担当。国際コンピュータ音楽会議ICMC-SMC2014（ギリシャ）入選。現在、名古屋芸術大学教授、愛知県立芸術大学、大同大学非常勤講師。

**操 美穂子** **Mihoko MISAO**

東京芸術大学付属音楽高等学校を経て同大学音楽学部器楽科卒業。シエナキジアーナ音楽院マスターコースディプロマ取得。小澤征爾オペラプロジェクトVIIに参加。これまでに芸大フィル、神奈川フィル×山形交響楽団合同オーケストラ、東京都交響楽団と共演。現在フリー奏者としてオーケストラ、室内楽、レコーディング、ソロ活動など多岐にわたり活動中。